

氏名	Aさん	Bさん	Cさん
学科(学部生)	日本文化学科	国際コミュニケーション学科	日本文化学科
所属ゼミ	佐藤ゼミ	畠山ゼミ	伊藤ゼミ(指導教員:吉村晶子先生)
Q1 卒業論文のテーマ	「ポーランド語母語話者の日本語音声」 指導教員:佐藤琢三教授	「明治の近代国家建設における「日本らしさ」の保持——大日本帝国憲法の制定過程を中心に」 指導教員:畠山圭一教授	「源氏物語絵巻論」 指導教員:吉村晶子先生(ゼミは伊藤守幸教授)
Q2 テーマを選んだ理由	<p>大入学時からずっと日本語教育に興味があり、佐藤ゼミに入ることを希望しておりました。佐藤ゼミでは、卒論の内容に関しては、「日本語に関することであれば何でも良い」ということだったので、先生との面談をしていく中でテーマを決定していきましました。</p> <p>私の卒業論文は「ポーランド語母語話者の日本語音声」という題目で、研究の対象者を「ポーランド人」で、かつ「日本語学習者」に絞っています。まずその理由として、大学2年時に協定留学で1年間ポーランドに留学していたからです。先に言ったように、もともと日本語教育に興味があったので、留学中に勉強だけでなく、ポーランドで日本語を学ぶ学生たちと交流を深め、実際に自分も教えたりする経験を積むことができました。そういった経験から卒業論文で活かすことができなかつたか考え、対象者を「ポーランド人」に絞りました。そして、もちろん「日本語」「日本語教育」に絡む対象者として、「ポーランド語母語話者」で「日本語を学習している人」にしました。さらに、「日本語音声」という部分は、留学中に彼らとの会話の中で、ポーランド人学習者の話す日本語は、「ら行」が巻き舌のようになっているのはどうしてなのかと疑問に思っていました。そのことから日本語学習者の話す「日本語の音声」を研究対象にしようと思いました。</p>	<p>本論文では、日本が、西洋の近代国家建設において、「天皇統治」を遺すこと「日本らしさ」(日本古来の伝統的意識)を保持するという、「革命」ではなく「維新」を行ったということ、大日本帝国憲法の制定過程を検証し、明らかにしました。</p> <p>私はゼミで国際政治を学ぶと同時に、国際政治の観点から見る国際交流や文化交流に強い関心を抱いていました。その過程で、現代のグローバル化が進む国際社会において、国際交流の在り方及び日本が果たし得る役割とはどのようなものかという点に、特に興味を持ちました。現代のような社会においては、国家的独立を保持しながらも他文化との調和を成し得た日本が果たすべき役割があるのではないかと考え、上記のことを明らかにすべく、このテーマを選びました。</p>	<p>徳川・五島本『源氏物語絵巻』早蕨の画面がどのような画面であるのか、源氏物語本文と画面の前に付されている詞書と呼ばれる文章、そして画面をそれぞれ比較・検証しました。</p> <p>私が本テーマを選択した理由は、単純に源氏物語という作品が元から好きで、徳川・五島本『源氏物語絵巻』という現存最古の源氏物語を主題にした作品があるということを知り、その絵巻で描かれている画面がどのようなものなのか研究してみたいと思ったからです。</p> <p>他の画面の中から、何故早蕨の画面を選択したのかということについては、以前から画面左右の人物たちの描き方が対照的であると感じており、なぜそのような描写になっているのかを自分なりに論証したいと思ったからです。</p>
Q3 作成スケジュール	<p>大学3年の夏に日本へ帰国したので、ゼミは他の3年よりも半年遅れてのスタートでした。私の場合、他大学の大学院進学を希望していたので、就職活動はせず、大学院入試に向けての勉強を並行して行っていました。大学院への勉強が卒論とも関わりを持つ部分でもあったので、卒論に関しては比較的多く時間をかけていた方だと思います。一番時間をかけた部分は、分析結果をどのようにまとめて、書き上げていかに時間をかけました。</p> <p>卒論に関しては、佐藤ゼミで先生が決めていた日程(下線部)に合わせて動いていました。以下がそのスケジュールです。</p> <p>期間:約一年半 【3年次】 10月:テーマ決定 11月:テーマに関する先行研究をまとめ、発表 12月:調査①(録音) 12月末:中間論文提出 【4年次】 6月:調査①の分析結果をまとめる 7月:中間発表 7月末:レポート5~10枚提出 8月:調査②録音・分析 9月:ゼミ合宿にて発表 11月:卒論第一稿提出 12月:卒論下書き最終版を提出 (12月25日まで先生の指導致あり) 1月8日:卒論提出</p>	<p>プロットや問題意識、序章には力を入れました。ここが論文全体にかかわると同時に、論文執筆に対する自らの意識にも影響してくるためです。また、私の場合は最終で独自性が発揮されるため、この部分も先生に指導して頂きながら、力を入れて仕上げました。</p> <p>期間:約一年 【3年次】 2月~:テーマ模索(卒論のテーマ探しの方法等を先生と相談) 【3~4年次】 2月~5月:テーマ決定(文献を読み進め、案を先生に提出) 先生と相談しながら卒論のテーマを定める 【4年次】 6月:テーマ発表(ゼミ内でテーマ発表。質問・意見等を頂き、さらにテーマを精査。) 6~11月:(資料集め及びプロット決定。資料集めは主に学習院女子大学、学習院大学、地元図書館を利用。) 11月:執筆開始 12月下旬:内容精査(先生に見て頂き、精査) 1月12日:卒論提出</p>	<p>卒業論文の研究対象は、4年生の春ごろには決定していたのですが、具体的にどの画面について論じていくかを決めたのは、4年生の夏休み明けでした。そこから10月いっぱいまでは文献や資料を探し、11月から本格的に執筆始めました。</p> <p>私が卒業論文で一番力を入れた部分は、論文構成です。一度論文を12月末に一通り完成させたのですが、論文の構成が上手く出来ていなかったため、もう一度構成を練り直し、加筆修正しました。ですので、これから卒業論文を執筆される皆さんには、きちんとした卒業論文の構成を完成させてから書き始めることをおすすめします。</p> <p>期間:約一年 【4年次】 春頃:テーマ決定</p> <p>夏休み明け:論文題材の確定</p> <p>夏休み明け~10月末:資料集め</p> <p>11月:執筆開始</p> <p>1月13日:卒論提出</p>
Q4 卒業論文の書き方はどこで修得したか	<p>ゼミの授業のときに、ゼミの先輩で優秀だった方の論文のコピーを先生から配布されていたので、大まかな構成の仕方などを参考にしていました。出来上がっている卒業論文に一度目を通しておくと、構成の仕方などにイメージができて効果的だと思います。また、引用の仕方や参考文献の書き方などは、先生からの指導がありました。他にも、自分と関わりのある分野の研究論文などを参考にすると書き方がわかりやすかったように思います。</p>	<p>卒論のテーマ決めや執筆の手順、そして論文の書き方は、ゼミ内の先生のご指導や、アカデミックスキルズから学びました。こういった要素を入れれば良いのかということや、どんなことに気を付ければ良いのかについて、最初にしつかりと確認しておきました。あとは、過去の先輩の論文や他の先行研究から読み取るようにしていました。</p> <p>また、表現や引用の書き方などの基本的なことは、アカデミックスキルズから学びました。これらは基本的なことですが、論文を執筆する上では非常に重要なことなので、きちんと調べることをおすすめします。</p>	<p>卒業論文の書き方は、一度確認のために指導教員の先生が授業をくださったので、どのように書くかという体裁は書き始める前から知っていました。執筆の際は、その時配布してくださったプリントや卒業論文執筆前に集めた論文などを参考に書き進めていました。執筆をし始め、体裁の書き方やどのように調べたらよいかなどの疑問については、自分でネット検索をしたり、指導教員の先生や友人に聞いたり、図書館で調べたりしましたが、やはり指導教員の先生のアドバイスを基に調べるのが一番良かったように思います。</p>
Q5 卒業論文を書くうえで、困難に感じたこと	<p>とにかく専門的な知識が必要だったので、それを補うための勉強が大変でした。いろいろな論文を読んだり、参考書を買ったりするなどして行いました。論文の構成とまとめ方が難しかったです。普段のレポートよりも長い文章のため、構成の中でどのように述べていくか、結果に導く部分の書き方は読者にわかりやすいか、など何度も構成を変えたり、推敲を重ねたりして、先生からの指導も受けました。</p>	<p>私の場合は、自らの問題意識を卒業論文という一つの形に落とし込むことに苦労しました。卒業論文はひとつの集大成ではあるものの、明らかに出来ることは非常に領域を絞ったものになります。そのため、私の問題意識は論文で完結するものではなかったため、その他の点は常に勉強することで補っています。まさに「生涯学習」だと思います。私は大学院に進みましたが、院でなくてもできることだと思います。</p> <p>また、表現や書き方等にも気を使いました。どこまで引用に当てはまるのかなど、論文を書く時には気を付けなければならない点が多くあります。それらは過去の論文やアカデミックスキルズなどを利用して、ひとつひとつ解決していきましました。</p>	<p>卒業論文で困難だったことは、毎日まとまった数の文章を書き続けるということでした。卒業論文の文字数というのは、各ゼミいろいろだとは思いますが、私のゼミの場合、一人二万字以上という規定でした。ですので、執筆期間が二ヶ月しかなかったため、一週間に四千字というペースを設定し、毎日何からの文章を書いていました。そして、それを毎週先生に見せ、相談するようにしていました。最初の二週間は四千字書くということが、とても大変でした。</p> <p>また私の場合、何か文章を書くということばかりを念頭に置いていたために、論文構成をしつかりと練ることをせず執筆し始めてしまったために、書きあげた後、根拠がしっかりとしない論文が出来てしまいました。それを加筆修正するのが、またとても大変でした。</p>

Q6	卒業論文に取り組むときのポイント	とにかく計画的に進めることをお勧めします。佐藤ゼミの場合は、定期的に提出、発表、面談をする機会がありましたので、常に卒論に関することを進めることができました。しかし、そういった働きかけがない場合は、自主的に進めていくことが必要です。私の失敗談としては、調査を行ったのですが、十分に分析できず、もっと良い結果が出せたのではないかと思います。自分が思っている以上に時間がかかるため、ゆとりをもつことが大事だと思います。	卒業論文を執筆するという点に、自分なりの意義・目標を見出すことだと思います。卒業論文を執筆することに対して、大学等が提示するような世間一般の意義はすでに存在するかもしれませんが、折角自分が取り組む以上、自分ならではのものか、これでは何を達成するのかといったことを明確にしておく、モチベーションも上がると思いますし、書き上げたときの達成感も変わってくると思います。	卒業論文では、やはり自分が何を主張したいのかをはっきりさせ、どのような過程を経て、その結論に至ったのかを論理的に示すことが論文として重要ですので、執筆し始める前にしっかりと論文の目次などを作成し、その点について自分で把握することがポイントだと思います。私の場合、その点をふっ飛ばして、何か文章を書かなくはというところにはやり目が行ってしまい、後で大幅に加筆修正をしなければならなくなっていましたので、その点をちゃんとするのが重要であると感じました。また、もう一つは余裕を持った予定を組み立てるということです。自分が実際に組み立てた予定というのは、徐々にそして大幅にずれていくものですので、それを考慮した上で、予定を組むことが重要なポイントだと思います。
Q7	使用した文献の種類	先行研究を読むには、学会誌の論文を使用しました。私が使用した学会誌は、日本語教育学会『日本語教育』、日本音声学会『音声研究』が主に挙げられます。論文では、その研究の記述の仕方や研究の方法論が参考になります。内容に関してわからない専門用語などの勉強は、学校の図書や、自分で購入した参考書を使っていました。	ほとんど図書を使用しました。私の場合は、歴史事実としてすでに明らかにされていることに対し、別の読み方ないし解釈をするというものが多かったため、図書を多く使用しました。	私の場合、研究対象が源氏物語絵巻ですので、主に学習院女子大学のGLIM/OPACや「CiNii」で検索して出て来た図書を参考文献としていました。ネット検索して見つけたページの情報も、そのページが何を参考文献にしているかを確認し、自分でも実際にその図書などをGLIM/OPACで検索し、読み、紙媒体の情報元から引用しよう心がけていました。また、参考文献が詳細に明示されていない情報は、卒業論文の資料として用いませんでした。
Q8	参考文献入手の際の情報源	まず、「CiNii」という論文データベースから関連しそうなキーワードを打ち込んで、いろいろな論文を探ることができました。データベース経由で読める論文もありますが、閲覧に限りがありますので、その際は読みたい論文が載っている学会誌を図書館で探したり、国立国語研究所まで論文をコピーしに行ったりもしました。先行研究を読んで勉強していきたくて、その論文で参考文献として挙げられているものを芋づる式に読んでいくことで探すのが絞れて効果的だったように感じます。	先生に紹介して頂いた本、本の参考文献一覧、CiNii Booksなどの検索サイト、図書館のOPACなど。卒業論文執筆の際は利用できませんでしたが、レファレンスに相談すると、資料の探し方も教えて頂いたので、おすめだと思います。	私は、源氏物語絵巻の先行研究を調べるために、学内のサーチエンジンGLIM/OPACやCiNiiで検索して、図書や雑誌論文を入手しました。その他に、私は源氏物語絵巻の詞書や源氏物語絵巻の本文を現代語訳する必要がありましたので、「Japan Knowledge」の中の日本国語大辞典をよく利用して、一つ一つの語を調べていました。いちいち何冊もある日本国語大辞典から語を探す手間が省けて、時間短縮につながったと思います。
Q9	卒論でWeb情報を収集・利用する際に気をつけたこと	私はWebから参考にすることはありましたが、引用はしていません。国における情報が必要だったので、国際交流基金や外務省などの信頼性の高いページを参考にしていました。情報を提示する際には、本文中に「〇〇によると〜〜〜が明らかになっている」ということを必ず明記すること、参照Webページとして論文の最後に参照先と最終閲覧日を記載しました。	概要をつかむためにWebを参考にすることはあっても、論文を執筆する際の情報にはほとんどしませんでした。また、実際に使用する際も信用できるサイト(政府等が出しているものなど)しか使用しませんでした。信用できる情報なのかをきちんと確かめることが大切だと思います。	Web検索で見つけた資料や文献を用いる場合、必ずそのHPの参考文献を確認し、学習院女子大学のGLIM/OPACで検索し、自分でも読んで確認できるもののみを使用しました。参考文献などが確認できないものは、明確な情報ではないと判断し、一切使用しませんでした。ですので、Webの情報は参考文献を探すための一つとして用いていたことになりました。
Q10	失敗(?)をふまえてのアドバイス	調査の事前準備をもっときちんとしていればと後悔することがありました。例えば、私の場合、日本語学習者が話す日本語を録音する調査ですが、録音が終わって、いざ分析の時に、あれもやっておけばよかったと思うことがありました。もう一度録音することは時間的に難しく、被験者への負担もあるため、読み上げてもらう例文や文章の内容、また録音環境などを事前にきちんと統制しておかなければいけなかったと思います。他にも、ゼミの友人はアンケート調査が多かったのですが、これも何度もお願いするわけにもいかないため、初めからアンケートの内容・方法を吟味する必要があると思います。アンケートを作るのが一番大変だったと言っていた人もいます。	あまり後悔はしていませんが、もう少し調査することができれば、より良いものが書き上げられたと思うので、もう少し早めに資料が集められたらなお良かったのではないかと考えています。あとは先生への相談(特に最終確認の時など)をもう少し早くしていれば、先生からのご助言をより活かされたのではないかと考えています。	最初に卒業論文のプロトタイプをしっかりと構成していれば、最後に大変な思いをする事はなかったと思いますし、取り上げる予定であった他の画面にも取り組むことができたのではないかと思います。幸い大学院に入学し、卒業論文で取り組む予定だった画面の研究が続けることができていますが、もし大学院に進まなければそのままになってしまっていたと思いますので、もう少し早く卒業論文の準備を初めるべきであったと思っています。なによりまだ一年あるしなどとは考えず、あと一年しかないと考えた方が後々余裕を持って、卒業論文の制作に取り組めると思います。また時間がなく切羽詰まっていると、考えもまとまりにくいですし、アイデアも出てきません。ですので、就職活動やサークルなど大変かとは思いますが、頭の片隅に卒業論文執筆ということを置いておくといいと思います。
Q11	図書館に期待すること	図書館はいつでも静かな環境です。私は、うるさい場所だとあまり集中できないので、集中できる環境として適切な場所でした。学会誌のバックナンバーもそろっていたので、図書館を利用して論文を探して読んだり、論文を書く上でベースとなる専門知識を蓄えるための参考書としても図書を読んだりしていました。何度か息抜きに映画も見ていたこともありました。(笑)卒業論文の作成者に対しての図書館の果たす役割は、「情報量」を期待します。学女は比較的小さい図書館ではありますが、文献はそろっているかと思われず。しかし、研究のテーマにもよりますが、自分の探しているものが全て見つかるわけではありません。私の経験では、特に論文は限りがあり、学女ではなく、学習院の文学部の書庫まで足を運んだり、国立国語研究所まで行ったりしました。わざわざ行ったのに、その論文の内容が自分の求める内容に当てはまらないものもたくさんありました。学習院にはあるのに学女にはないことにもどかさも感じるときもありました。その手間を少しでも省けたらな、と思うことがありましたので、情報を手に入れるためにもっと幅広い文献を増やして図書館が豊かになればいいなと思います。	別の項目でも述べましたが、レファレンスは非常に有益だと思います。その割にあまり使用している方が少ないので、もっと活用しても良いのではないかとあります。あとは個人の取組の部分が重要となると思うので、困ったときに相談できる、応えてくれるという役割が、執筆する側としては非常に役に立つものだと思います。個人的に期待することとして、貸出冊数の上限は、この時期は少々上げてほしいと思いました。また、論文提出の時期が私の時は冬休み明けで、冬休みの間は図書館がしまっていたので、それは少し大変でした。	図書館に期待することですが、私は学習院のデータベースNAVIをもっと多くの学生に知ってもらいたいと思いました。先ほども述べましたが、私は学習院のデータベースNAVIにあり「Japan Knowledge」の中の国語大辞典を活用し、卒業論文を執筆しました。この学習院のデータベースは、本来個人利用する場合有料登録が必要ですが、学内では無料で使用することができ、多くの事典類や小売館の日本古典文学全集などもあり、とても便利でした。ですが、私はこの存在を指導教員の先生に教えてもらって活動してほしいと思いました。また、学習院大学の図書館や図書の書庫、図書センターの本だけでなく、各学科の書庫などにある本も学習院女子大学まで運んでくればよいのかなと思いました。